

サステナビリティ情報の検証

日本能率協会 サステナビリティセンターは、温室効果ガスをはじめとしたサステナビリティ情報の検証を行っています。

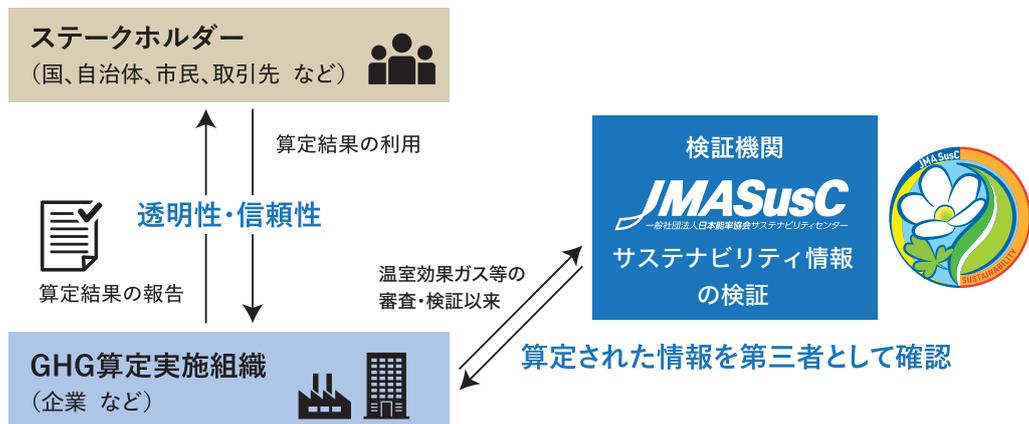
JMASusCは、貴社のサステナビリティ情報を第三者の立場として検証を行います。

(ジェーエムエーサスシー) 2025年7月1日より機関名称をサステナビリティセンター (JMASusC: ジェーエムエーサスシー) へと変更* (旧名: JMA 地球温暖化対策センター (JMACC))

サステナビリティ基準委員会 (SSBJ) にもとづく開示対応やGXリーグ対応など、企業に求められる開示義務と検証への対応が必須となってきます。

JMASusC (JMAサステナビリティセンター) では、スコープ1,2,3と呼ばれる温室効果ガス排出量の検証のほか、エネルギー使用量、環境情報、社会情報等に対する検証を実施しています。

第三者の立場として、貴社の開示情報の透明性と信頼性向上の一助となれば幸いです。



ISO14065の認定を受けた 検証機関

JMASusCは、JAB(公益財団法人日本適合性認定協会)からISO14065の人的を受けており、ISO14064-3(温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引)をもとに検証を実施。

CDP認定第三者検証パートナー



JMASusCはこれまでのスコープ1,2,3の検証活動の実績が認められ、気候変動の第三者検証パートナーとしてCDPから国内で最初に認定を受ける。

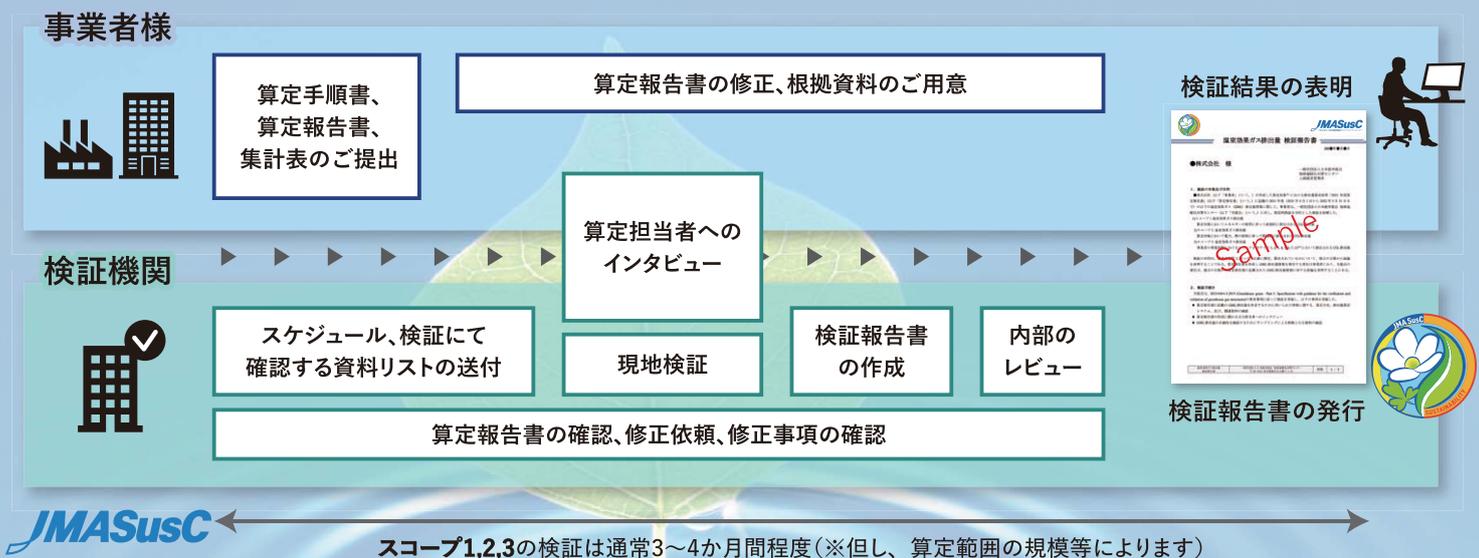
サステナビリティ情報の検証に加え、各種制度への対応も幅広く実施しています。

代表的な国内制度一覧

- GXリーグ (限定的保証、合理的保証)
- J-クレジット制度 (排出源・吸収源)
- 埼玉県「目標設定型排出取引制度」
- JCM (2国間クレジット)
- 東京都「総量削減義務と排出量取引制度」
- カーボン・オフセット、カーボン・ニュートラル制度等

※一般社団法人日本能率協会サステナビリティセンター (JMASusC) は温室効果ガス (GHG) に関わる検証事業を2006年から推進してきました。検証機関としての国連 (UNFCCC) による認定をはじめ、第三者機関として国内外のGHG排出量・吸収量の妥当性確認・検証・認証業務を実施してきました。産業界・社会ではカーボンニュートラルの実現に向けたGHG排出量削減への取り組みに限らず、サステナビリティ全体を推進することが求められています。サステナビリティ経営がより強く求められている中、JMA地球温暖化対策センター (JMACC) は、2025年7月1日より機関名称をサステナビリティセンター (JMASusC) へと変更しました。

検証の流れ



検証対象

検証に関してご要望がありましたら、見積依頼表への記載を依頼いたします。

- 算定対象期間、検証対象事業所
- スコープ1,2の対象エネルギー種、スコープ3の対象カテゴリ
- 環境情報(水使用量、廃棄物排出量等)
- 社会情報(女性管理職数、障がい者雇用数等)等の確認

サステナビリティ情報の検証

検証の契約の前に
検証対象範囲を確認します。

検証のポイント

- 算定範囲、算定基準は明確になっていますか？
- 算定手順は整理されていますか？
- エネルギー使用量等の活動量の根拠はありますか？
- 各種係数原単位等の根拠は整理されていますか？
- 算定体制は十分ですか？



POINT

将来、振り返った際に、どのように算定したか、分かるように整理することが重要です。

サービス導入の流れ

お問い合わせ

検証対象の確認、見積書のご提出

ご契約

キックオフ/算定報告書、手順書、集計表等を
貴社よりご提出

JMASusCのポイント

Point 1 2006年設立後、国内各種の検証制度の立ち上げ時より検証を実施。2009～2017年は、京都議定書に基づく「CDM(クリーン開発メカニズム)」における検証機関として国連(UNFCCC)から認定を受ける等、幅広い経験を持つ。

Point 2 JABよりISO14065認定。CDPより気候変動の第三者検証パートナーの国内初認定。

Point 3 いずれの利害関係者からも独立した、真に公正・中立な第三者としての評価。

お問い合わせ

JMASusC 一般社団法人日本能率協会サステナビリティセンター

E-mail : jmasusc@jma.or.jp <https://jmasusc.jma.or.jp/>

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22 Tel : 03-3434-1245